

# 第 1 章

## 週 5 日制をめぐって



月 2 回の週 5 日制の導入によって、週 6 日制のころと比べて、年間でおよそ 20 日、授業時間数に直せば 50~70 時間程度は授業や学校行事に使える時間が少なくなったことになる。時間数が少なくなったことで実際に授業や学校行事は削減されたり統合されたりしたのだろうか。また少なくなった分をどのように補っているのだろうか。本章では、週 5 日制をめぐって、月 2 回週 5 日制の導入による時間割上の対応をどのように行ったのか、学校行事にはどのような影響があったのか、という 2 つの側面から検討する。

## 月2回週5日制への対応

### 1. 年間総授業時数の変化

【年間総授業時数を減らした小学校は5校に2校ほど。岩手県、岡山県では半数以上の小学校が減らしているのに対して、東京都、福

岡県、熊本県は3分の1程度の小学校が減らしているにとどまっている。】

Q2. 月2回の週5日制導入後の、貴校での時間割や学校行事といった年間スケジュールの組み方についておたずねします。

B. その年間総授業時数は、月2回の週5日制の導入以前と比べて変わっていますか。  
 (※文中のアルファベットは質問番号。巻末の調査票を参照 (以下同))

月2回週5日制の導入によって、小学校の年間総授業時数には変化があったのだろうか。

最初に全体からみると、図1-1のように、43.7%の小学校が年間総授業時数が「減っている」と回答している。これは中学校全体の19.0%に比べて20ポイント以上も高い。一方、年間総授業時数が「変わっていない」小学校は48.1%となっており、年間総授業時数を減らした小学校と変えなかった小学校はほぼ半数ずつだった。

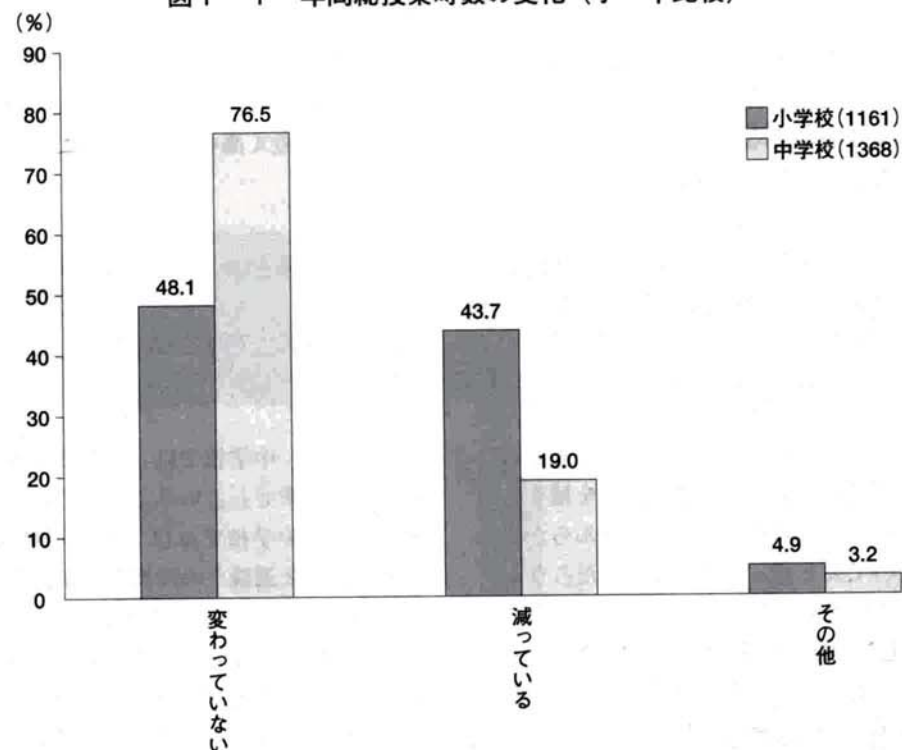
次に地域的な違いをみてみよう。年間総授業時数が減っている小学校の割合を図1-2よりみていくと、都県庁所在地か市部か郡部かという所在地別には数ポイントの差しかない。都県別にみると、岩手県と岡山県で半数以上の小学校が減らしているのに対して、東京都、福岡県、熊本県は3分の1程度の小学

校が減らしているにとどまっている。

興味深いことに、中学校では都県庁所在地にある学校のほうが減らしている割合が高く、都県別には東京都で減らしている学校が一番多かったのに、小学校では反対に郡部のほうが減らしている割合が高くなっており、東京都が一番少なかった。

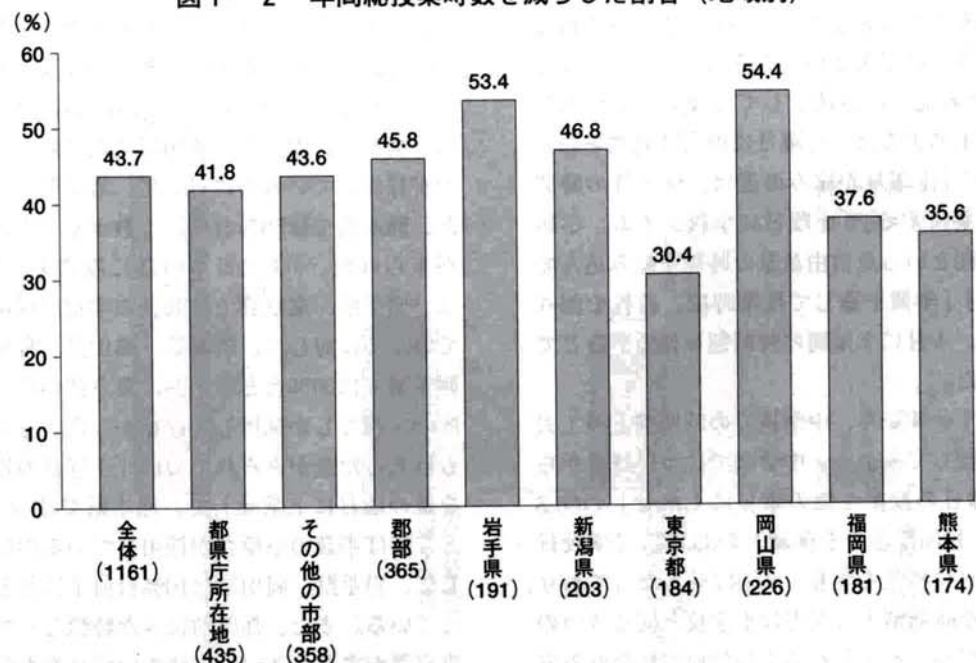
なお、回収されたサンプルには都県別に所在地の偏りがあることを考慮しながらみると、年間総授業時数を減らしたか変えなかったかという対応のしかたの違いは、所在地別にみられる差異というよりも、都県別にみられる差異のほうが大きいとみることができる。この点では、中学校では都県別にみられる差異よりも所在地別にみられる差異のほうが大きく、小学校と中学校では、異なった地域の特徴があるといえそうだ。

図1-1 年間総授業時数の変化 (小・中比較)



注) ( ) 内はサンプル数。

図1-2 年間総授業時数を減らした割合 (地域別)



注) ( ) 内はサンプル数。

## 2. 時間割上の工夫

【短縮授業日を削減したのは3校に2校、学校行事の日に授業を行うのは3校に1校、同じく3校に1校が土曜日の授業を他の曜日に上乗せしている。年間総授業時数を変えてい

ない小学校のほうが減らした小学校よりも、土曜日の授業を他の曜日に上乗せした割合が20ポイント近く高い。】

Q2. 月2回の週5日制導入後の、貴校での時間割や学校行事といった年間スケジュールの組み方についておたずねします。

C. あなたが主として指導している学年では、時間割を組む上でなにか工夫をしていますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

土曜日が隔週で休みだということや週5日制に伴って減るはずだった授業時数を補う必要から、それぞれの小学校では、なんらかの時間割上の工夫を行ったのではないだろうか。

最初に全体からみると、図1-3のように、「学期初めや学期末の短縮授業日を以前より減らしている」小学校が65.3%と、3校に2校までもがこの方法を採用している。また、「学校行事のある日に授業も行っている」小学校は33.0%、「休みの土曜日の授業を他の曜日に上乗せしている」小学校は29.3%と、3校に1校がこれらの方法を採用しており、これら3つの方法が、小学校でよくみられる時間割上の工夫といえよう。

「その他」の方法として挙げられていた時間割上の工夫は「土曜日に固定時間割を作らない」「土曜日が休みの週は、ゆとりの時間を授業にする」「土曜日に学級タイム、学級の時間といった自由裁量の時間を組み込んでいく」「年間を通じて授業時間、教科を割りふる。4月に1年間の時間割を作る」などであった。

図1-4から、中学校での時間割上の工夫と比較してみよう。中学校では多いほうから「土曜日の授業を他の曜日に上乗せ」の66.8%、「短縮授業日を削減」の33.7%、「学校行事の日に授業を実施」の19.7%となっており、主要な時間割上の工夫は小学校と同じ3つの方法だが、もっとも多くの学校で使われる方法には、小学校では「短縮授業日を削減」な

のに対して、中学校では「土曜日の授業を他の曜日に上乗せ」というように違いがみられる。また、中学校では14.4%の学校で採用されていた「2週続きの時間割」が、小学校では5.0%でしか採用されていなかった。

次に地域的な違いをみてみよう。表1-1から、まず所在地別にみると、「学年で統一した時間割を作っている」で、都県庁所在地のほうが、市部より6.4ポイント、郡部より10.0ポイント、また「短縮授業日を削減」でも都県庁所在地のほうが市部や郡部より8ポイントほど多くの小学校で採用されていた。それ以外の項目では目立った差はなかった。

一方、都県別の差は所在地別の差よりも多くの項目で顕著である。「短縮授業日を削減」は、新潟県、東京都、岡山県で70%以上の学校が採用しているのに対して、岩手県、福岡県、熊本県では50%台で、十数ポイントの差がみられた。「学校行事の日に授業を実施」は、岩手県、東京都で40%台の学校が採用しているのに対して、新潟県、岡山県、福岡県、熊本県では20%台と岩手県、東京都の半分程度の学校でしか採用していなかった。もっとも目立った差がみられたのは「土曜日の授業を他の曜日に上乗せ」で、熊本県では47.7%と、ほぼ半数の小学校が採用しているのに対して、岩手県、岡山県は10%台前半にとどまっている。また、都県別にみた特徴としては、東京都が主要な3つの方法のいずれをも多くの小学校で採用しているが、これは年間総授

業時数を減らした小学校の割合が低かったことから当然のことといえよう。熊本県では主要な3つの方法以外にも「学年で統一した時間割」や「2週続きの時間割」などを作っている割合が他県より高く、さまざまな工夫

を行っている様子が見えてくる。

さらに、年間総授業時数を変えなかった小学校と減らした小学校とで時間割上の工夫の違いがあるかみてみよう。図1-5のように、「土曜日の授業を他の曜日に上乗せ」を、授

図1-3 時間割上の工夫

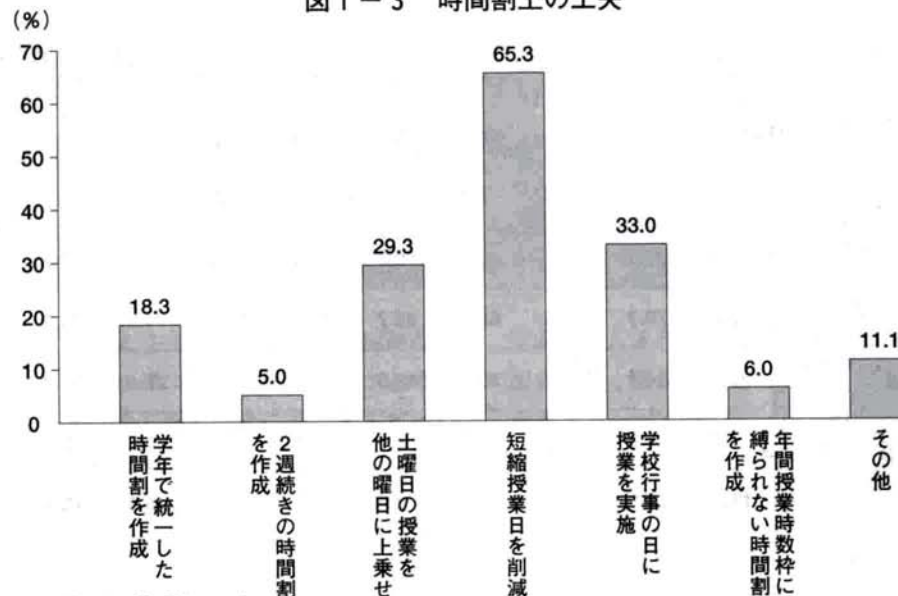
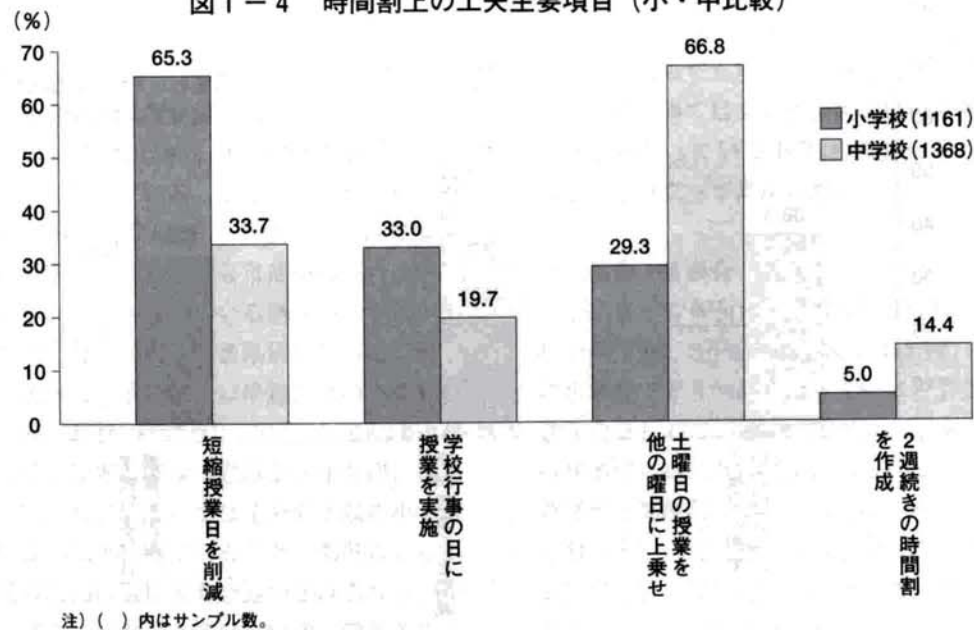


図1-4 時間割上の工夫主要項目 (小・中比較)



業時数を変えていない小学校のうち38.3%が採用しているのに対して、授業時数を減らした小学校では21.1%しか採用しておらず、20ポイント近い差がみられるが、他の項目では両者の差は数ポイントしかない。このことか

ら、年間総授業時数を変えずに月2回週5日制に対応した背景の1つには、「土曜日の授業を他の曜日に上乘せ」という時間割上の工夫があったといえよう。

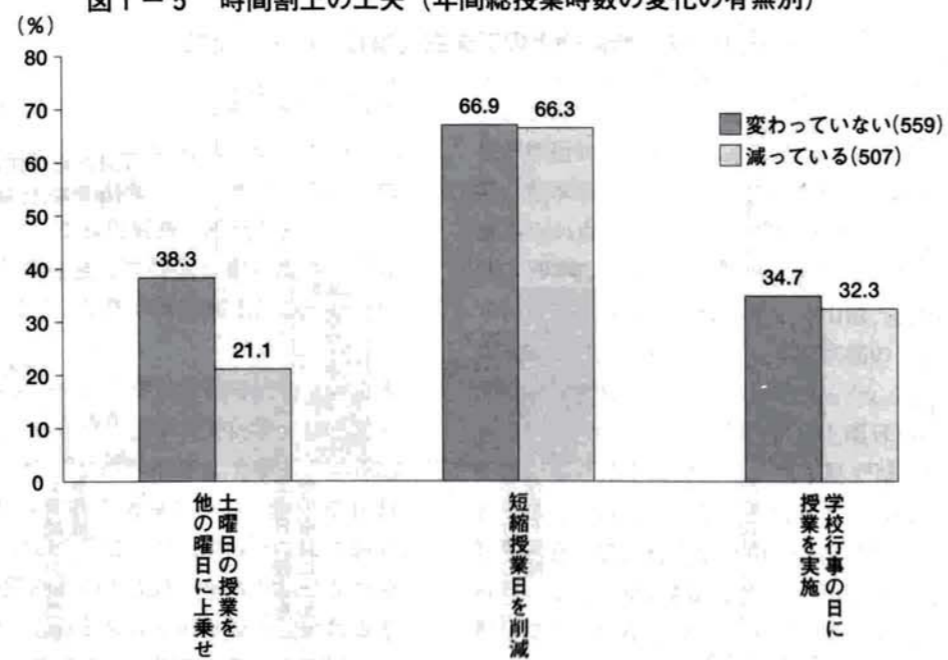
表1-1 時間割上の工夫（地域別）

(%)

	全体 (1161)	都県庁 所在地 (435)	その他 の市部 (358)	郡部 (365)	岩手県 (191)	新潟県 (203)	東京都 (184)	岡山県 (226)	福岡県 (181)	熊本県 (174)
学年で統一した時間割を作成	18.3	23.4	17.0	13.4	15.7	11.8	15.8	18.1	22.1	27.0
2週続きの時間割を作成	5.0	5.5	4.5	4.9	2.6	4.4	2.7	0.4	7.7	13.2
土曜日の授業を他の曜日に上乘せ	29.3	30.3	29.1	28.2	14.7	26.6	41.3	12.8	38.7	47.7
短縮授業日を削減	65.3	70.3	62.6	62.2	59.7	74.9	76.6	71.7	54.7	51.7
学校行事の日に授業を実施	33.0	34.3	34.1	30.4	43.5	29.1	48.9	26.5	24.9	25.9
年間授業時数枠に縛られない時間割を作成	6.0	6.2	3.9	7.9	3.1	6.4	3.8	4.4	12.7	6.3
その他	11.1	11.0	10.9	11.5	9.9	12.8	12.5	10.6	12.7	8.0

注) ( ) 内はサンプル数。

図1-5 時間割上の工夫（年間総授業時数の変化の有無別）



注) ( ) 内はサンプル数。